

令和元年度 新潟市発達支援コーディネーター養成研修

# 子どもの発達支援に活かす 連携と保護者の理解

～人間関係を豊かにする連携を中心にするために～

新潟大学 教育学部  
有川 宏幸

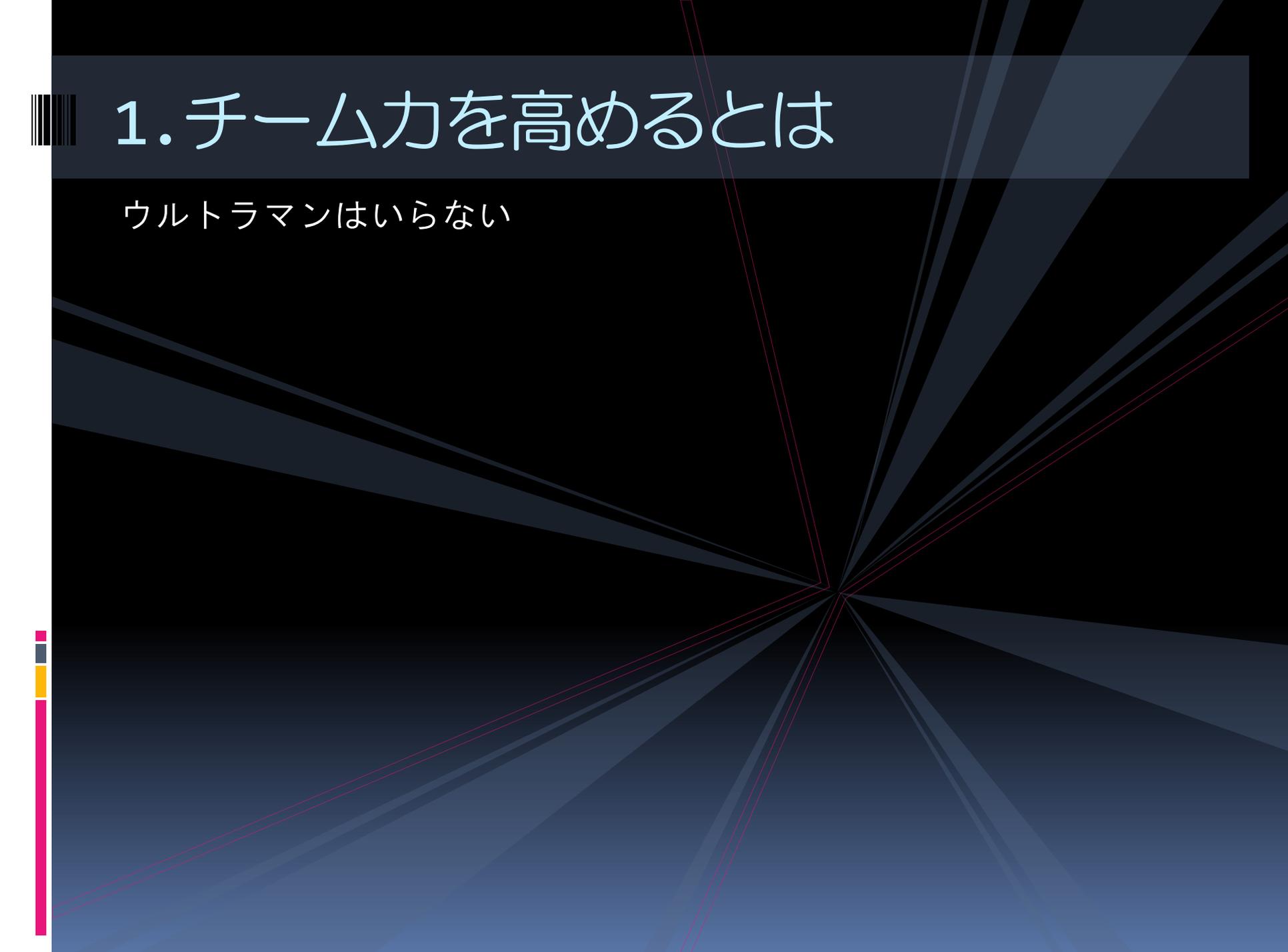
## 0.はじめに

- 本講義では「保護者の理解と支援」と、それを実現するための関係機関の協働について考えます。
- 関係機関と上手に協働する方法について考えます。
- 保護者と上手にやっていくための方略について考えます。
- 保護者との関係作りの中で、やってはいけないことについて確認します。



# 1. チーム力を高めるとは

ウルトラマンはいらない



# チーム力は向上しています・・・

- あなたはラグビーチームの監督をしています。少しでも強いチームを作るために、毎日悪戦苦闘しています。
- そこで、○○で大活躍している、リーチさんに時々コーチに来てもらうようにしました。とても不思議な事ですが、リーチさんに見てもらったと、子どもたちはメキメキと力をつけていきました。特に、技術力が劣っている子ほど、その変化は目を見張るものがありました。
- そこで、リーチさんに今までよりも多く、チームに来てもらうことにしました。チームは連戦連勝。
- リーチさんの評判はうなぎ上り。今では、他のラグビーチームからも引く手数多です。

# チーム力のこれからを考える

Discussion!

リーチさんは . . . . . その後



- このチームの状態を、「現在のチーム」を「肯定的側面」「否定的側面」から評価せよ。
- またこの先、このチームはどうなっていくと思いますか？

# ウルトラマンは・・・



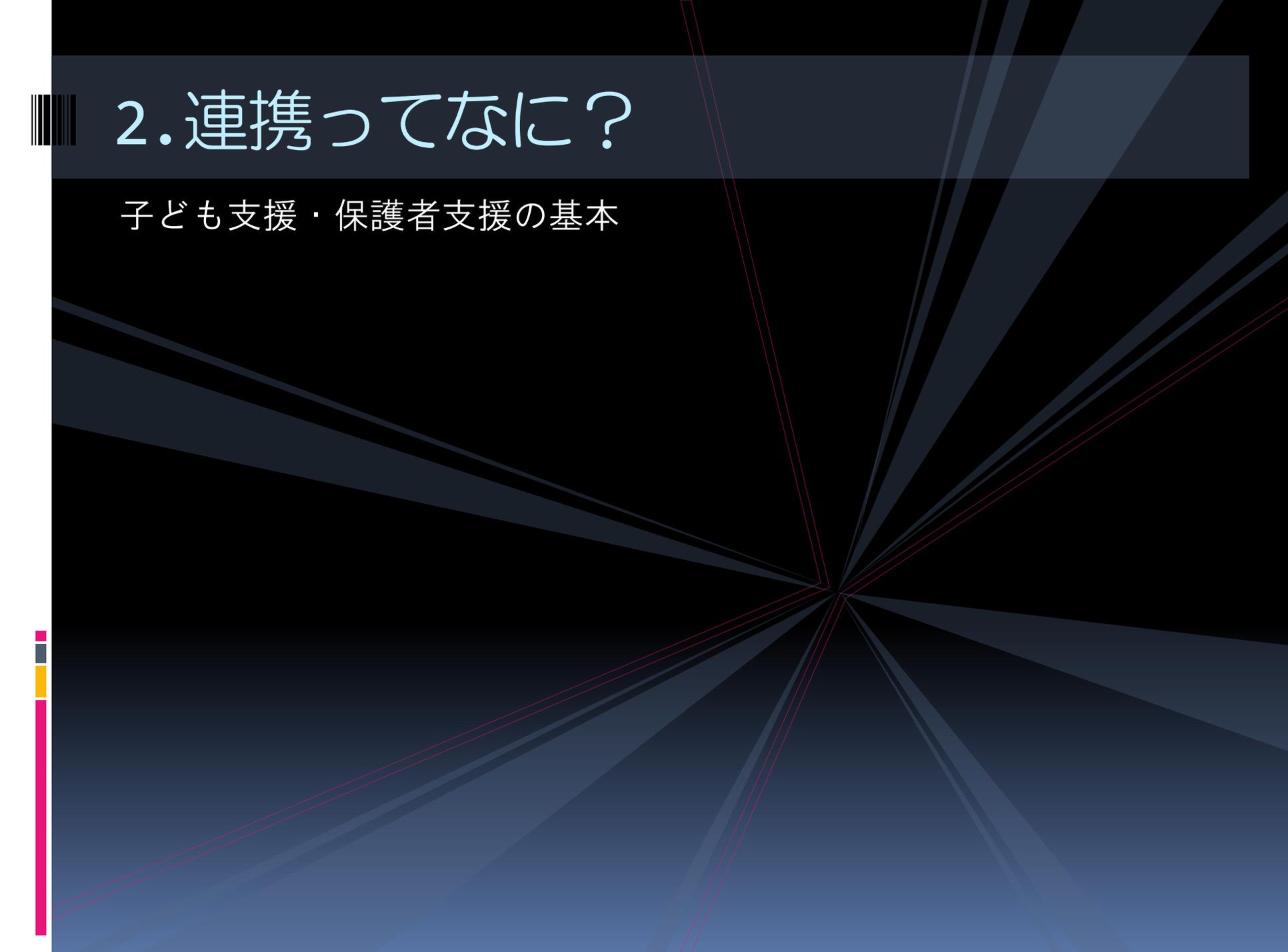
- いない。
- ウルトラマンは、怪獣を倒す事はできるが、科学特捜隊を強くすることはできない。
- チーム力を向上させないと、いずれ、チームは滅びます。科学特捜隊が、その後、どうなったのか、実は誰も知らない・・・。

それでは、これからどうしますか？  
具体的に戦略をたてましょう。



## 2.連携ってなに？

子ども支援・保護者支援の基本



# よく聞くはなし・・・

- 「連携会議を設置し、関係機関の連携のもと支援をおこなっており・・・」と、会議を設置することで「連携」を実行しているとする大きな勘違いをしてしまう。そんなところにかぎって・・・



事務局「それでは、とりあえず関連機関は状態を見守るということで・・・え～それでは、そろそろ時間が来ましたので、次回はいつにしますか・・・」

まったく具体性に欠けており、これでは会議のための会議です・・・これを連携と言ってははいけません!!

# 連携って一体「何」なの・・・

- 演習

実際に「連携」とはどのような活動をさす用語なのか考えてみよう！！

私、一度会ってみたいのですが？

- これから私が会いたい人のヒントを皆さんに、一つだけお伝えします。
- 5つのヒントになりますが . . .

私が会いたい人は、誰だと思えますか？



# ヒント1

- 全米が認めた、レジェンドです。
- 



## ヒント2

- 彼の世界記録はまだ破られていません。
- 



# ヒント3

- 日本中が注目しました。





## ヒント4

- 俊足を活かしたプレーで活躍しました。
- 



# ヒント5

- この春、現役を引退しました。



# 5つのヒントが集まると

- 全米が認めた、世界的大スターです。
- 彼の世界記録はまだ破られていません。
- 日本中が注目しました。
- 俊足を活かしたプレーで活躍しました。
- この春、現役を引退しました。

# おまけヒント・・・

- オリックスでもプレーしていました。

# イチロー



メジャー歴代シーズン  
最多安打記録の262安  
打。

日米通算4257安打を  
更新、そしてメジャー通  
算3000本安打を達成

# 情報量と信頼性・妥当性

- 支援ニーズはもともとは見えないものです。
- 情報量が多ければ、情報の信頼性は高まり、支援ニーズの妥当性は高まります。
- 最悪なのは、少ない情報量で、好き勝手に支援ニーズを決めてかかることです。

情報については可能な限り多くの量を集めることが何よりも必要なことです。支援目標の設定には支援ニーズの把握は不可欠です。

連携ってなに？

(ここまですべてをチェック)

ここでは「連携」を

「支援を必要とする者に対して、複数の関係機関が情報を共有し、その問題の解決をはかるための基本戦略を立て、その戦略を実行すること」と定義しましょう！！

あなたは、連携により具体的な解決へと向かおうとしていますか？



# 3. 支援目標と連携

「推測・憶測」に基づく情報の危うさ



# あなたならどうする・・・

事例：

Aくんは5歳児。最近、午前中はなにやらボーっしていて先生の話聞いていないことが目立ってきた。

もともと、積極的に発言する子ではなかったが、先日の発表会では質問すると何を問いかけても、答えようとはせず、うつむいて動かなくなってしまった。

一ヶ月まえに肺炎で入院してからというもの、「風邪」をひいて休むということが多い。母も子育ての意欲が乏しく、欠席の連絡をしないことも多い。

忘れものも多く、何度か母親に気をつけてもらうように話すも、あまり変化はない。

# ものの本などによると・・・

特性の把握

特性やニーズに応じた支援方法の検討

P:支援計画の立案・作成/目標設定

D:実際の支援

C:支援結果の測定

A:支援課題の明確化・改善点の整理

この一連のサイクルを“PDCA サイクル(plan-do-check-action cycle)”と言ったりもします

# あなたならどうする・・・

事例：  
事 ぽーっとしている・・・夜更かししてるん  
かあ～

立って来た  
いや、いや・・・発達障害かもしれない。

えまろくとはヒラ、アツモい、動がなくなつてしまつた  
登園しぶりか・・・それとも・・・

「風邪」といって、アツモい、動がなくなつてしまつた。母は「月  
の音効がエー、アツモい、動がなくなつてしまつた。母は「月  
親の養育問題もありそうだぞ・・・

とりあえず専門機関につなごう・・・

# なんちゃって支援プラン

- とりあえず、専門機関の人にお願いしよう。
- 園で、どのように対応するのか助言をもらおう。
- 保護者にもう少し家でも頑張ってもらおう。少し子どもにも無関心みたいだし・・・気になることある時はすぐ連絡とろう。

この中には「何一つ、自分たちの専門性を活かすプラン」がありません。

# そもそも、誰も救われない

- とりあえず、専門機関のアドバイスに従って対応してみたが、うまくいかない。
- やはり、私たちは専門家ではない・・・専門家にもう一度来てもらって、みてもらいましょう。
- 母親へも協力を求めたが、もともと熱心な親でないし・・・困ったもんだ。

関係機関には、それぞれの役割に応じた、様々な情報が眠っている。

また関係機関には、その専門性故にすべきことが他にある。保育の専門性までは担えない。

# 包括的に支援を見渡してみれば

- 医療機関で  
てんかん発作の管理がされている。
- 聴覚言語療法士(現:言語聴覚士)に  
構音の未熟により、病院のクリニックで言語療法を受けている。
- 行政からは  
経済的に支援を受けている。
- 保健師により  
母親は、育児への疲労もあり自律神経失調症のため定期的に支援を受けていた。

# それでは生態学的アセスメントをしてみ ましょう(森をみてみよう)・・・

- ・てんかん発作を持っており投薬管理が必要。最近、成長に伴い投薬量が変わった。投薬量を合わせているので、多少副作用が出やすい状況(少しボーッとしやすい)。

- ・構音の未熟により、実は病院のクリニックで言語療法を週一回受けている。ようやく言語療法士との間で、普通に話せるようになった。

- ・母親は、母子家庭で、生活も不安定。育児への疲労もありときどき保健師がじっくり話しを聞いていた。また自律神経失調症のため定期的に受診中・・・

# 再度、支援プランを考える

- てんかんの薬の副作用で注意が散漫になりやすい
  - 投薬時間のコントロール・今後の見通しの把握
- 構音の未熟により、表出言語が不明瞭
  - 質問は一斉場面を避け、個別にする。
- 家庭生活が不安定なため、家庭では十分な支援が得られない。
  - 家庭への一方的な要請はしない。家族全体を支援できる体制を作る。

アセスメントの方略次第で、まったく異なる支援ニーズになってしまいました。森を見ることの必要性がよくわかったと思います。

# ちょっと違う角度から・・・

その頃、病院では・・・

医師「薬を変えてから発作の方はどうですか？  
何か、生活で不都合なことはありませんか？」

母親「特にありません。先生、なんか最近やたら  
と泣くことが多いんですけど・・・。」

医師「う～ん、特に副作用ではないと思います  
ね」

母親「そうですか・・・」

家族もネットワークの中に参加させておかない  
と、こんな問題が起こってしまいます。

# 木を森にするために・・・

- 医療による支援情報
- 外部の機関による支援情報
- 福祉資源の活用に関する情報
- 母子保健にもとづく支援情報
- 当該機関の支援情報

個別の短期・長期支援目標

個別の支援計画

個別の指導計画



# 4. 「うまく」 やっていく

価値観が異なる相手とともに・・・



# 相手変われば・・・

保健センターでは

- 「なんで学校って、あんなに融通が利かないのかしら・・・ほんとにモウウ～」

学校では

- 「そんなこと、学校では無理に決まってるじゃん・・・保健センターだからできんだよお～」

どうやら、お互いまったく価値観が異なるようですね・・・これではうまくやっていけません。恋人なら、いずれお別れするでしょう。

そんでもって、夫婦も・・・?!

# 今の親って・・・

アリカワ「あのお母さん、なかなか受け入れ悪くって、なんでわかってくれないんですかね・・・」

ある人「アリカワさんの常識は、あのお母さんにとっては非常識なんですよ・・・」

自分の価値観が絶対的だなんて思っ  
てはいけない

# 価値観とは

何が大事で何が大事でないかという判断や、優先順位、重み付けの体系のこと。



## 演習

異なる「価値観」を変える・・・？

# 最終価値 (Rokeach, 1973)

## (人生において達成したい目標)

- 快適な人生(豊かな人生)
- 達成感(永続的な貢献)
- 平和な世界(戦争や紛争がない世界)
- 美の世界(自然美や芸術美)
- 平等(あらゆる人間にとっての機会平等)
- 家族の安全(愛する人を守る)
- 自由(独立、選択の自由)
- 幸福(満足)
- 心の調和(心の葛藤がない)
- 喜び(楽しくのんびりした人生)
- 心の救い(救済・永遠の人生)
- 社会的認知(尊敬、称賛)
- 真の友情(親しい間柄)

# 演習1

- 初めて会った人に、自分の価値観を受け入れてもらう。

さあ、説得しよう！！

## 演習2

### 1) 価値の融和を試みる

相手の「一番の最終価値」について、理由を尋ね、話しを詳しく聞き、さらにはその話題について広げてみよう。

2) 相手が、自分の「一番の最終価値」について尋ねてきたら、それを伝えてみよう。

# 個人の価値観は・・・

- 人はそれぞれ異なる価値観を持っている。
- 価値観の違いを理解することは、相手の行動や自分の行動を説明したり、予測する上で役立つ。

相手の価値観を変えようとする  
試みは、対立関係を生み出す!だけ!  
対立関係ではなく、融和関係に  
してみると・・・

# 協働関係を作るために

(ここまでのまとめとしてチェックしてみよう)

- 職種や立場が異なれば価値観も厳密には異なっていると思ってください。そして、その価値観はなんなか変えられません。
- 「じょうず」に協働し、相手に協力を仰ぐのであれば、そこにはやり方があるのです。それは相手の価値観を認め、尊重することです。
- あなたが「それ」をすることで、相手も「それ」をしてくるでしょう。
- 融和しなければ、協働はまず無理です。



関係作りのために、まずやること

## 5. 保護者との関係作りの はじめの一步

# 情報は誰のもの・・・

- 連携により得た情報でも、いざ使う段階で勝手に使えないことが多々あります！！
- 「使える情報」にするためには、どうしても保護者を巻き込まなければなりません・・・

今日  
は・・・何の  
話があるのか  
しら・・・



保護者は・・・  
私がこの情報を  
知っているとは知  
らない・・・  
となると、このこ  
とを話し合えな  
い・・・

# それではちょっとここで・・・（演習）

## 問い

「あなたには、好きな人がいます。その人とつきあいたいと思っています。

さて、あなたの思いを告白するまでの道のりを整理してみましよう」

A：告白したい人

B：「告白したい人」の幼なじみ

# 保護者との関係作りは・・・

振られるリスクを低減しながらあなたの思いを受け入れてもらうことに、実は「保護者とうまくやっていく」ための極意がありそうですね!!

# 保育者に“振られない”戦略

1. 情報収集(親の障害観・家族/親族実態・家庭での子どもの様子)
2. 保護者の要望の把握(情報提供と説明責任)
3. 情報分析(今提供すべき支援は何か)
4. 情報共有化(個人情報保護の問題も含め)と支援戦略の一致(勝手に支援しても機能的な支援にはならない)

# 情報共有がないと、何か問題あるの？

A先生「お母さん、自分の身の回りのことは一通り出来るようになってきているから、失敗してもいいので自分でさせましょうか」

保護者「そうですか、わかりました。私もつい忙しくて待てないんですよ。やっぱりなんでもしてしまわないといけないですよ。ね・・・」

# 情報共有がないと、何か問題あるの？

ところが……

保護者「この前、B先生が、お母さん忙しいし大変でしょう。そんな無理しないでいいわよって……」

この一言でA先生への信頼は大きく揺らぎました。B先生が引き起こした“信頼の崩壊”は、A先生の取り組みを共有していなかったことから生じました。

# まとめ

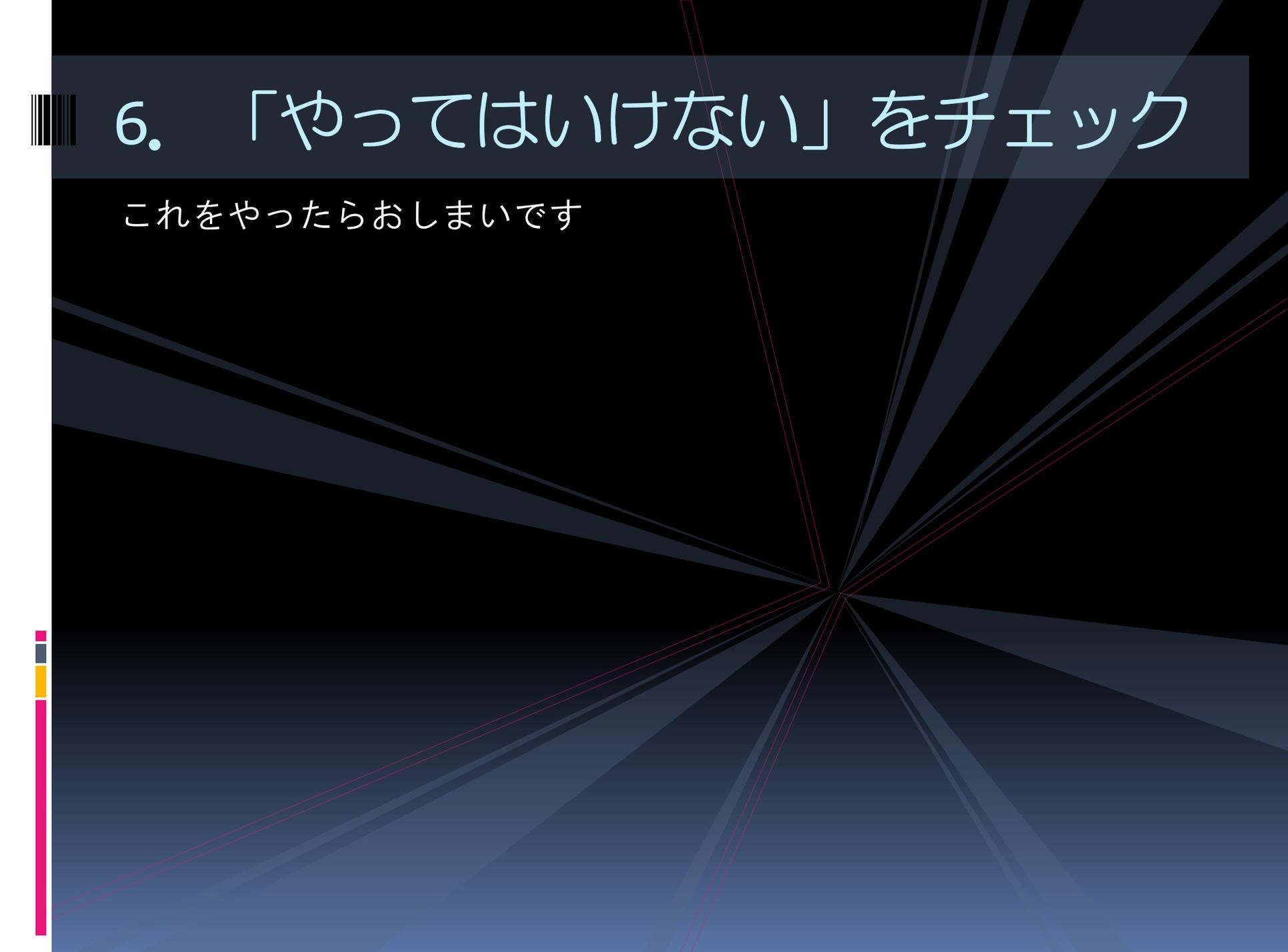
## 関係を「つくる」も「こわす」も

- 良い関係を「つくる」も「こわす」も、あなた次第である。
- 教師、保育士と言えども関係性の構築をはからなければならない。
- それが出来ていない中で、保護者と難しい話、聞き入れがたい話が出ることは100%ない。
- 破局からやり直すことは、ことのほか難しい。であれば、我々は保護者に振られてはならないのである。



# 6. 「やってはいけない」をチェック

これをやったらおしまいです



# 1. 保育園・幼稚園から家庭へのやりとりは、困った行動を中心としたものになっていないか？

- 「困った行動」が生じた途端に、急に「保護者」と連携をとろうとする傾向があります。保護者もその話題ばかりなので、子どもが正當に評価されているのか学校に不審感を持ちます。
- 保護者の中には、再三にわたる問題行動に対する担任とのやりとりを、苦痛に思っていることが多い。

困った行動を中心としない関係づくりを目指す！

## 2. “親の問題” に常に帰着していかないか？

- あなたにとって「うまくいかない」ことは、保育・教育の問題とは考えず、保護者や家庭等に問題があるといった“自分の外に原因”があると考えがち。
- こうした姿勢は、相手にも伝わるものです。問題を考える始点は、まず「自分自身」から始めてください。

客観的に問題の所在を明らかにする習慣を身につけてください。特にキャリアのある人ほど気をつけて！！

### 3. 文化的な差異(子育て環境の変化など)を認めず、親に杓子定規な価値観を押しつけていないか？

- 文化的な違いは、否定するのではなく、その世代の文化を学び取る一つの情報として尊重し、客観的に評価し、保護者への対応に活かす一つの情報とすべきである。
- その上で、必要な助言等を行う。

文化的差異は価値観の差異でもある。わざわざ摩擦を生むような関係に陥らないように

## 4. 異なる希望を保護者がもっていた場合、それを認めているか？

- 支援者・教育者の立場で子どもへの希望を持つことは必要。しかし、保護者も同様に子どもへの希望を持っている。
- 支援者・教育者の希望だけを主張し、保護者の価値観を認めないというのは傲慢です。これでは「協働」は出来ません。

希望はお互いに尊重し、可能な限り認め合い、歩み寄る

## 5. 支援する関係者が縦割りでバラバラになっていないか？

- 子どもの事を、何度も説明しなければならぬことを保護者は嫌います（先生たちの中で、引き継ぎがなされていないのではと不安になります）。
- 保護者も担任が変わるときには不安は大きくなります。基本的には継続した支援をしてもらいたいと願っています。いかに上手に引き継ぐか・・・

まず支援者間の連携が欠如しては、とても保護者との連携など出来ません

## 6. 子どもの「支援計画」「指導計画」等の策定に親が参加しているか？

- 学校や療育施設・幼稚園・保育所等で一方的に決められ、そのような計画書がいつ作られ、何が決められているか、知らない保護者もいる。
- 保護者と協働できているかというのは、支援計画や支援目標が協働で策定されているかがバロメーターとなる。
- 保護者が加われない事由があれば、それはその時点で別の支援の枠組みです。

保護者が積極的に参加できている事、それが良好な関係が築けている指標なのです



# 9. おわりに



# 有川研究室

E-Mail : arikawa@ed.niigata-u.ac.jp

Twitter: <https://twitter.com/aripiyon>

Facebook : <https://www.facebook.com/arikawa.hiroyuki>

HP: <http://arichannel.jp/>

本日使用したパウポのPDFを、1週間  
だけホームページの「研修資料」

<http://arichannel.jp/research-program/lecture-meeting/>

にアップしておきます。ダウン  
ロードは自由です。



研究室公認ゆるキャラ「あり  
犬」



有川宏幸著

『発達が気になる乳・幼児の「こころ育て、ことば育て」』

出版社

ギアース教育新社」

[http://kyoikushinsha.co.jp/  
book/0326/index.html](http://kyoikushinsha.co.jp/book/0326/index.html)